

技術革新によるイノベーションで、 リスクをオポチュニティに変え、 サステナブルな社会の実現に貢献します。

世界は今、時代の転換点を迎えています。世界各国でのポピュリズムや自国第一主義の台頭、米中覇権争いに代表される国際的対立などにより地政学的リセッションの時代に入り、また、デジタルやバイオを中心とした技術革新の進展に加え、気候変動問題など、社会の持続可能性への関心が年々高まっています。また、SDGs(持続可能な開発目標)の達成目標年である2030年まで残り10年となり、日本においても、SDGsと連動したSociety 5.0の推進など、SDGs達成に向けた取り組みの加速が期待されています。

本年に入ってから新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、人々の移動や経済活動を厳重に制限しなければならなくなった状況下において、人々はリスクの面から社会の持続可能性をより意識するようになっていきます。

しかしながら、企業にとってリスクとオポチュニティはまさに表裏一体であります。今後の社会の方向性を見極めた上で、イノベーションを起こすことでリスクをオポチュニティに変え、サステナブルな社会の実現に貢献していくことが重要です。

住友化学グループは、「自利利他 公私一如」(住友の事業は、住友自身を利するとともに、国家を利し、かつ社会を利するものでなければならない)という考えのもと、これまでも事業を通じて社会の発展に貢献してきました。今後も、技術を基盤とした新しい価値創造に挑戦し、世界の人々が直面しているヘルスケア、環境、食糧、資源・エネルギー問題などの喫緊の社会課題の解決に貢献するとともに、当社グループの長期にわたる持続的な成長を実現します。

ステークホルダーの皆さまにおかれましては、引き続き、格別のご支援、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

2020年7月
代表取締役会長

十倉 雅和

